

「水の安全保障」課題に

ABAC APEC首脳会議に提言へ

アジア太平洋経済協力会議(APEC)首脳の公式民間諮問機関であるAPECビジネス諮問委員会(ABAC、共同議長＝森本泰生・東芝顧問)が、8日から3日間、横浜市で開催された。従来からの課題である食料の安全保障、エネルギーの安全保障に加え、日本提案の「水の安全保障」を討議、次回委員会からアジアタ(検討課題)の1つとして取り上げることが決定した。

9日に開催された同委員会では、国連環境技術顧問を務める吉村和就・グローバルウオータ・ジャパン代表が「アジア太平洋地区の水問題と解決策」を講演。ひっ迫する水資源の現状や、経済発展するアジア太平洋地区での水問題など、事例を交えて紹介した。

さらに、この水問題解決のためにはAPEC内に「水の安全保障」を討議する機関が必要だと提言した。参加各国からは「今まで水が課題に入っていないことが不思議だ」、「日本の提案を支持する」との賛同の声が上がった。

そして、10日に行われた総会において、現在の「持続発展を考えるワーキンググループ」は、来年から「持続する成長を

考えるワーキンググループ」と改称することが決まり、「水の安全保障」が同WGでのアジアタの1つとなることが決まった。

新ワーキンググループは、2011年秋に米国・ハワイで開催されるAPEC首脳会議に提出する提言書をまとめるために、来年2月、5月、8月の同委員会で議論を重ねていく。

水のおいしい都市

安全・安心の「水」

APECでPR!

横浜市水道局

横浜市水道局は、14日に閉幕したアジア太平洋経済協力会議(APEC)で、会議場に「はまっ子どうしThe eWater」を提供したり、APEC横浜地元PRブースに出展



するなどして、「水のおいしい都市・横浜」をアピールした。

ブースでは、「都市インフラを支える、安全と安心の水処理システム」をテーマに、パネルやNS形タクタイル鉄管模型、相関式漏水探知機、卵形消化方スタック模型の展示を行い、横浜の環境に優しい水管理の仕組みを強調した写真。また、APEC開催に伴って排出されるCO2を「はまっ子どうしThe eWater」の売上の一部などで京都メカニズムクレジットを購入し、710トンのCO2をカーボンオフセットする取り組みを行っているが、10月末現在までに目標の70万本を上回る72万本を販売し、目標を達成している。